

第6回全米BRT会議

6th National Bus Rapid Transit Conference

及川 潤¹ 若井亮太² 牧村和彦³

By Jun OIKAWA, Ryohta WAKAI and Kazuhiko MAKIMURA

1 はじめに

全米BRT会議はTRB（アメリカ交通研究委員会）の主催でBRT（バス高速輸送システム）に関する様々な知見や技術等を共有し意見交換する会議であり、不定期で開催されている。

第6回全米BRT会議がアメリカのロサンゼルスにて2018年6月18日～20日の3日間の日程で開催された。本稿ではその概要を報告する。

2 第6回全米BRT会議の概要

(1) 全体スケジュール

表－1に示す通り、3日間で14のセッションが行われた他、初日の夜にポスターセッションと意見交換会、2日目の午前にテクニカルツアーが行われた。

表－1 第6回全米BRT会議のスケジュール

日	セッションタイトル
18日	OP カリフォルニア州南部におけるBRT
	A BRTとは何か（合意形成の重要性）
	B 交通システムの一部としてのBRT (1)
	ポスターセッション・意見交換会
19日	テクニカルツアー （ロサンゼルス市内のBRTの視察）
	C BRTプロジェクトの資金調達
	D BRT、TODとコンプリート・ストリート
	E BRT運用上の課題
	F BRTの発展(1)
	G 交通システムの一部としてのBRT (2)
20日	H BRTにおける政策的課題
	I BRTの最適化（デザイン）
	J BRTの発展(2)
	K BRTの新展開
	L 車両設計と動力技術
	CL BRTの未来：自動運転

※ OP=オープニング、CL=クロージング

(2) セッション

セッションはオープニングとクロージングが1会場、他の12セッション（A～L）が2会場に分かれて並行して行われ、合計56本の発表が国、自治体、交通事業者、民間研究機関等より行われた。

中でもアメリカ国内でBRTを導入した都市の行政担当者の発表が多く、各地域でBRTを導入した経験から得られた知見を共有する内容が多く見られた。また、アメリカ国内だけでなく、カナダ、メキシコ、ブラジル、韓国といった国からの発表も行われた。

発表では車両のデザイン、ルート設定、運行頻度といったBRTそのものの仕様設計にとどまらず、市民との合意形成、資金調達、他の交通機関との調整、道路空間設計、政策との整合、TOD（公共交通指向型都市開発）等のまちづくりといった幅広いテーマが扱われた。



写真－1 セッションの様子

(3) テクニカルツアー

2日目の午前にはテクニカルツアーが開催され、ロサンゼルス市内で運行されているBRT路線の視察を行った。ツアーは2種類設定されており、そのうちの1つに参加した。

参加したツアーではBRT路線で実際に使用されている車両がチャーターされ、「ウィルシャーBRT」と「オレンジライン」の2路線を巡り、路線の概略や特徴などの説明が行われた。

a) ウィルシャーBRT

ロサンゼルスダウンタウンの西方にあるウィルシャー地区において、朝夕時間帯のバス専用レーン（片側3車線の外側）と公共交通優先信号を組み合わせた約16kmの「ウィルシャーBRT」が2015年までに段階的に供用された。

ツアーではバス車内でウィルシャーBRTの概要が説明された他、ウィルシャー地区で計画的に整備されたTODの拠点について、現地説明が行われた。



写真-2 バス車内での説明の様子



写真-3 TOD拠点として整備されたウィルシャー地区

b) オレンジライン

ロサンゼルスダウンタウンから北西方向のハリウッド地区に向けて地下鉄レッドラインが延びている。「オレンジライン」は地下鉄の終点のノース・ハリウッド駅を起点として西方向への輸送を担うBRT路線であり、2005年に開業した。

オレンジラインではバスの走行車線が中央にあり、一般車線とは分離帯で物理的に隔離され一般車の影響を受けずに走行できるのに加え、ウィルシャーBRTと同様に優先信号が導入されている。

テクニカルツアーのバスはこの専用車線に途中から乗り入れ、ノース・ハリウッド駅のバスターミナルまでを実走した。



写真-4 テクニカルツアーで乗車したBRT車両
(ノース・ハリウッド駅バスターミナル)

3 おわりに

今回参加した第6回全米BRT会議には「もはや黎明期ではない (No Longer an “Emerging” Mode)」という副題が付けられている。BRTは世界各地で普及が進んでおり、「新しい交通機関」ではなく、主要な交通機関の一つとして定着しつつある。

自動車大国のアメリカであっても、近年は都市内の公共交通整備が各地で重要な課題となっている。共通の悩みを抱える行政担当者や関係者が一同に介し、朝から深夜まで議論している姿から、国民の足を守り育てていくという強い思いが感じられた。

高齢化が今後急速に進行していく日本においても、公共交通の整備・維持は重要な課題である。国民の足を守るため、今回の全米BRT会議に負けない活発な議論が日本国内でも期待される。

参考文献

- 1) 6th National Bus Rapid Transit Conference:
No Longer an “Emerging” Mode
<http://onlinepubs.trb.org/onlinepubs/Conferences/2018/BRT/program.pdf>